

学番	4 1	県立栃尾高等学校
----	-----	----------

令和 7 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	1 地域を支える、地域に応えられる人材の育成 2 基礎力（学力・体力・忠恕）充実から節度の育成 3 「知徳体（知仁勇）」の実践から健全な人間育成	
三つの方針（スクール・ポリシー）		
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	① 社会の価値創造に寄与できる力を育成します。 ② 自分の居場所に主体的に粘り強く関わろうとする態度を育成します。 ③ 自分と他者の人権を共に尊重する姿勢を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	① 各教科・科目で習得した知識・技能を、他教科や他分野で活用するなど、教科横断的な教育活動を展開します。 ② 地域と連携する活動を教育課程に位置づけ、授業での学びが地域の充実に活かされるような授業を行います。 ③ 人文・自然科学系列、福祉・家庭系列、工業技術系列、ビジネス・情報系列の4系列を設置して、個別最適な学びを軸とした主体的な学習を進め、幅広い進路希望に対応します。 ④ 選択授業、少人数授業を数多く設定し、個性を生かした主体的な選択や実践的・体験的な学習を重視することで、生徒の適性や理解度に合わせた丁寧でわかりやすい授業を実施します。 ⑤ 一人ひとりの人権の尊重のもと、発達支持的生徒指導を軸に、みんなが安心して学べる場所にする風土づくりに取り組みます。	
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	① 長岡市唯一の総合学科であることに誇りを持ち、本校の学びの内容を理解し、色々なことに挑戦する向上心のある生徒 ② 家庭・学校・地域など身近な存在をいとおしく思うことができる生徒 ③ 基本的生活習慣を大切にする生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
○成果 ・「総合的な探究の時間」の充実 ・人権の尊重を軸とした教育活動の見直し ○課題 ・観点別評価の着実な実施	1 総合学科の特性の発揮と学ぶ目的の明確化	(1) 各系列における主となるテーマに基づく指導 (2) キャリア教育としての位置づけの中での生徒の主体的な科目選択 (3) 現教育課程の実施と学習評価の改善
	2 生徒の学習意欲の向上と基本的生活習慣の確立	(1) 入学当初からの継続的なキャリア教育の実施とわかる授業の実践(2) 基本的生活習慣の確立と問題行動に対する予防指導の徹底(3) 生徒情報の共有化と特別支援教育の充実(4) 中途退学・転学者、長期欠席者の防止
	3 地域の企業や福祉施設、幼保・小・中学校、行政、住民・大学等との連携の拡大	(1) 栃高未来プロジェクト委員会の活動の充実(2) 学校評議員会、地域の声を聞く会における連携の強化(3) 地域の幼保・小・中学校・大学等との連携の双方向化(4) 地域活動への積極的な参加(5) 学校ウェブページ及びnoteの充実と学校便り等の発行
	4 いじめのない学校づくりの推進	(1) いじめ対策推進教員を中心とした校内組織の整備(2) 「いじめ防止基本方針」「行動計画」の実効化と校内研修の実施(3) 人権意識の醸成によるいじめの未然防止
	5 部活動の活性化と効率的な運営	(1) 魅力的かつ継続的な活動の推進 (2) 生徒減に対応した部活動の在り方検討

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
1 総合学科の特性の発揮と学ぶ目的の明確化	(1)各系列における主となるテーマに基づく指導	「産業社会と人間」における系列説明会等で、系列ごとの特色や進路などを具体的に提示することで自己の在り方生き方について考えさせる契機とする。(1年次)	B	A	A
		選択科目説明会等で各系列の特色や進路を具体的に提示し、自らの進路に即した科目選択ができるようにする。(2年次)	A		
		進路実現を図り、職場や進学先で自立し、最後まで責任を持って仕事・学業をやり遂げる態度や能力を養う。(3年次)	A		
		生徒の実態に応じてさまざまな教材を選定し、社会人として通用する読解力・表現力を養わせる。(国語科)	A		
		福祉・家庭系列において、地域交流を取り入れた校外実習を行うとともに、各種検定を取り入れ、技術の向上と社会貢献に関する意識を高めさせる。(家庭科)	A		
		実験・実習を多く取り入れ、ものづくりを体験しながら、エンジニアとして必要な知識や技能を身に付けさせる。また、工業に関わる資格・検定試験の指導を実施する。(工業科)	A		
		商業科目を学ぶことを通して、将来の職業人として必要な豊かな人間性の基礎を育成する。また、商業に関わる各種検定試験の指導を実施する。(商業科)	A		
	(2)キャリア教育としての位置づけの中での生徒の主体的な科目(系列)選択	「産業社会と人間」や橡峰ライフ等を通して自己理解と進路に対する意識を深めさせ、主体的な科目(系列)選択ができるよう、ガイダンス等の内容を充実させる。(1年次)	A	A	
		自己実現の達成に向け、作品の廊下掲示や橡峰祭の発表等の表現活動を行い自己理解の認識と能力向上に努める。また、日常生活に芸術を取り入れ、自他批評する能力を養い、自らの可能性を追求し、自己発見する。(芸術科)	A		
		情報技術を効果的に活用して、情報を収集・処理・表現するとともに、効果的なコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に主体的に参画するための資質、能力を育成する。(情報科)	A		
		総合学科としての特性を生かし、工業技術系列の授業を軸に、機械・電気・住宅・情報・デザイン等の工業各分野において興味・関心を持ち、幅広い知識や技能を身に付けることができるような授業のテーマや内容を設定する。(工業科)	A		
		各年次・教科および教育課程委員会との連携を図り、本校の系列の特徴を具体的にわかりやすく説明する。それにより学習活動を通じて勤労観・職業観を育成できるような科目選択を行わせる。(教務部)	B		
	(3)現教育課程の実施と学習評価の改善	小規模単位制高校のあり方について、観点別評価の実施を進める。(教務部)	B	B	
		職員減に伴う教育課程の点検・見直しおよび科目選択の在り方を着実に進める。また、学級減に向けて、よりよい教育課程の構築に向けて準備を進める。(教育課程委員会)	A		
2 生徒の学習意欲の向上と基本的生活習慣の確立	(1)入学当初からの継続的なキャリア教育の実施とわかる授業の実践	「産業社会と人間」「橡峰ライフ」の内容を踏まえ、3年間を見通した進路指導をする。(1年次)	A	A	A
		インターンシップや進路ガイダンス、面談を通して、進路を具体化させるとともに、勤労の大切さを実感させる。(2年次)	A		
		橡峰ライフの時間を中心に、進路に関する情報を提供するとともに、面接・作文・小論文の指導を実施し、進路実現を図る。また、個人面談や三者面談を通じて、生徒の進路希望を保護者、職員間で把握し実現できるように指導する。(3年次)	A		
		漢字学習の習得および資格取得の機会として漢字能力検定を年二回校内で実施出来るよう計画し、副教材を活用して生徒の基礎学力向上を図る。(国語科)	B		

		少人数クラス展開をし、生徒の実態に応じた教材の提供や適時の補習等により実用数学技能検定３級程度の計算力を身につけさせる。(数学科)	B	
		学習用タブレット端末を積極的に活用するとともに少人数クラス展開により学習効果を高め、英語の基礎力の養成、充実に努める。ALTとの授業を通じ異文化に対する興味や理解を深め、国際社会に通じる人権意識を養う。パフォーマンステストを定期的実施し、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を養う。(英語科)	A	
		希望する進路実現に備え、資格・検定試験の補習を積極的に行い、卒業までに一つでも多く合格できるよう指導する。 丙種危険物取扱者・計算技術検定・パソコン利用技術検定・情報技術検定においては５０％以上の合格を目指す。また、実習で学んだ内容を他者に的確に伝えられるように、プレゼンテーションソフトや文書表現などの技術を学び、コミュニケーション能力の育成に努める。(工業科)	A	
		基礎基本の定着を図り、進路実現に結びつける。各種検定試験の合格率を向上させる。(商業科)	B	
		年間活動計画を策定し、全校生徒へのアンケートや意見交換を行い、自発的参加の委員会活動や行事運営を進める。また役割分担を明確にし、参加意欲を高められる行事への企画・運営を行う。(生徒会部)	A	
		上級学校見学・企業見学を通して、求められる力を把握し、進路目標を明確にさせる。外部講師等による進路ガイダンスや模擬授業を提供し、自己の適性に見合う進路を考えさせる。基礎力テスト、適性検査等を実施し、個々の基礎学力の向上を図る。個々の生徒に対応した進学補習を継続的に行うことにより、学習意欲を喚起し、進学に必要な学習習慣の定着と学力の向上を目指す。模擬試験を実施し、進路を意識した学習の定着と入試に向けた実践力の向上を図る。個人面談などを通じて生徒の希望や適性を把握し、担任との連携を図りながら、具体的な進路目標を設定させる。また、企業の採用担当者との面談を通して採用に対する考え方を分析し、具体的情報を提供する。ハローワークと連携し模擬面接や個別面談を行い、個々の希望・適性に応じた指導を行う。日常の生徒とのやりとりや作文指導や面接指導を通じ、社会人としてのマナーを身につけさせる。(進路指導部)	A	
	(2) 基本的な生活習慣の確立と問題行動に対する予防指導の徹底	朝読書を通じて授業の始業・終業時の規律を守れるよう指導する。(１年次)	B	B
		日常生活の中で授業の始業・終業時の規律を守れるよう指導する。(２年次)	A	
		学校生活全般に渡り、時間管理、挨拶、清掃活動を徹底する。(３年次)	B	
		漢字小テストを計画的に実施するとともにワークブックの提出を定期的に課し、計画的かつ継続的な家庭学習の習慣を養う。(国語科)	A	
		定期的に課題を課し、家庭での学習習慣の確立を目指す。(数学科)	A	
		必要に応じ課題などを課し、基礎的な学力の定着を目指す。(理科)	B	
		食生活、睡眠(休養)、運動の大切さを理解し、自ら計画及び管理し、健康の保持増進のために１日の生活のリズムの確立を促す。服装・時間・挨拶・競技ルール遵守等を徹底し、集団における規律や協調・協力の重要性を理解し、安全な学校生活が送れるように指導する。(保健体育科)	B	
		授業開始時刻を徹底し、時間厳守による自己管理の育成を促す。共同制作を通じて協調性を育む。(芸術科)	B	

		全校集会等を通じ、欠席や遅刻、服装等の身だしなみ、貴重品管理の徹底などの指導や、学業における不振科目が出ないように計画・助言する。(教務部)	B		
		全職員による登校指導等を実施し、必要に応じ継続的な指導を行う。スマホ安全教室、薬物乱用防止講演会や原付バイク実技講習を年間行事に組み入れ、生徒の指導に役立てる。多様な生徒に対し、必要に応じて関係機関との連携を図り、継続的に指導を行う。(生徒指導部)	A		
		あいさつの奨励を行い、学校全体の活力につなげ、社会的マナーの向上につなげる。(生徒会部)	B		
		保健便りを発行し、健康・安全に関する情報提供を行う。各種検診を実施し、事後の指導を通じて早期治療を促す。緊急時の連絡体制を整え、教職員に周知する。(教務部)	A		
	(3)生徒情報の共有化と特別支援教育の充実	心身の問題、疾病、その他配慮が必要な生徒についての情報を担当年次や職員全体で共有し、各生徒に応じた対応に努める。必要に応じてケース会議を実施して、個別の対応や、スクールカウンセラー・外部機関との連携を行う。(特別支援教育推進委員会)	A	A	
	(4)中途退学・転学者、長期欠席者の防止	基本的な生活習慣の確立や学習習慣の定着をはかり、成績不振や未履修・未修得を防ぐ。個々の生徒への声かけを行い、問題を抱えている生徒の早期発見と対応、教員間の情報共有に努める。特に支援や配慮が必要な生徒については、共通理解を図る。(1年次)	A	A	
		基本的な生活習慣の確立や学習習慣の定着をはかり、成績不振や未履修・未修得を防ぐ。個々の生徒へ言葉かけを行い、問題を抱えている生徒の早期発見と対応、教員間の情報共有に努める。特に支援や配慮が必要な生徒については、共通理解を図る。(2年次)	A		
		生徒会行事を通して、年次間の横のつながりと年次を越えた縦のつながりや係わりを持たせることによって、学校生活の充実と交流を深めることができる環境をつくる。(生徒会部)	A		
		保健講話を実施し、生徒の心身の健全化をはかる。スクールカウンセラーと連携し、生徒や保護者等が抱える問題の解決のために援助を行う。教員対象の教育相談研修会を実施し、生徒理解や個別の生徒対応等について学ぶ場を設定する。(特別支援教育推進委員会)	A		
3 地域の企業や福祉施設、幼保・小・中学校、行政、住民・大学等との連携の拡大	(1)栃高未来プロジェクト委員会の活動の充実	地域の産業や伝統を体験することにより地域理解をさらに深め、地域の活性化に貢献する。(2年次)	B	B	B
		地域の産業や歴史、文化、伝統を探究することにより地域理解をさらに深め、地域の活性化に貢献するための資質や態度を育成する。(3年次)	B		
		栃尾地域の課題に着目し、SDGsの視点を取り入れながら、課題解決に向けた取り組みを実践し、地域に必要とされる高校の実現をめざす。また、地域の交流イベント等を企画・運営し、生徒が主体的に行動できる能力を育む。(栃高未来プロジェクト委員会)	A		
	(2)学校評議員会、地域の声を聞く会における連携の強化	P T A、地域の声を聞く会等において、外部から寄せられる意見等を生かして、生徒指導上の課題解決を図る。(生徒指導部)	A	A	
	(3)地域の幼保・小・中学校・大学等との連携の双方向化	文化祭や演奏会、地域貢献活動等での作品発表・展示・演奏を通じて、地域の方や地元小・中学生にアピールする。(芸術科)	A	A	
		地域の保育園や高齢者施設、社会福祉協議会との連携を深めた内容の実習を取り入れるとともに、生徒自身が地域社会を担う存在であることを理解させ、意欲的に社会参加する態度を育成する。(家庭科)	A		

		ビジネス・情報系列3年次生の授業を軸に、長岡大学が取り組む『栃尾地区ブランディング事業』に参加して、共同で課題解決に取り組む。商品開発・観光に関する企画を行い、地域活性化プログラム開発を試みる。開かれた教育課程の構築を図る。(商業科)	A		
	(4)地域活動への積極的な参加	地域交流イベント等に参加し、体験的なブースで小中学生やその保護者に対し、栃尾高校における工業科目の特色や学習内容を発信することで、進路選択の一助となるように努める。(工業科)	B	B	
		中学生対象の『体験入学』を実施し、学校説明を行い本校の特徴を積極的にPRする。(教務部)	A		
	(5)学校ウェブページ及びnoteの充実と学校便り等の発行	適宜学校ウェブページを更新し、保護者や地域にも学校の状況が伝わるようにする。(教務部)	B	B	
		各行事ごとの映像を撮影し、行事紹介や結果報告の一助となるように努める。(生徒会部)	A		
4 いじめのない学校づくりの推進	(1)いじめ対策推進教員を中心とした校内組織の整備	いじめを察知した場合は、管理職とともに適切な判断のもと迅速に対応し、全職員で協力して問題解決に当たる。また、スクールカウンセラーと連携し、問題の解決のために援助を行う。(いじめ対策委員会)	A	A	A
		生徒指導部内だけでなく、全職員で情報を共有しながら指導する。(生徒指導部)	A		
	(2)「いじめ防止基本方針」「行動計画」の実効化と校内研修の実施	個々の生徒への声かけや、生徒情報の共有をはかることで、問題を抱えている生徒の早期発見に努める。また、生活アンケート等を活用していじめの兆候に即時に対応する。(1年次)	A	A	
		個々の生徒への言葉かけや、生徒情報の共有化をはかることで、問題を抱えている生徒の早期発見とその対応に努める。(2年次)	A		
		年3回のアンケートを実施するとともに、委員会を開催し、いじめの兆候を早期に察知する。(いじめ対策委員会)	A		
		いじめに関する職員研修を開催する。毎年、基本方針および実践するための行動計画を点検し、必要に応じて改定していく。(いじめ対策委員会)	A		
	(3)人権意識の醸成によるいじめの未然防止	LHR、「産業社会と人間」、橡峰ライフなどの時間を活用し、幅広く人権教育を行い、いじめや差別を見逃さない心を育てる。(1年次)	A	A	
		橡峰ライフの時間や日常生活の中で、幅広い人権教育を行い、いじめや差別を見逃さない心を育てる。(2年次)	A		
		生徒一人ひとりが他者の権利を尊重する意識を持ち、行動できる感性と能力を養う。(3年次)	B		
		武道や球技等の特性を活かして相手やチームのメンバーを尊重し、協力した活動を促すとともに、相手を思いやる大切さや意識の啓発、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保できる能力を養う。(保健体育科)	B		
		スマホ安全教室などを活用し、ネットいじめの未然防止やSNS教育、携帯モラル教育の充実に努める。(生徒指導部)	A		
5 部活動の活性化と効率的な運営	(1)魅力的かつ継続的な活動の推進	入学時に生徒に部活動への参加を積極的に呼びかける。(1年次)	A	B	B
		授業を通して多くの運動種目を経験し、運動の楽しさや面白さを理解する中で、運動部への興味関心を高め運動部加入率の向上を目指す。(保健体育科)	B		
	(2)生徒減に対応した部活動の在り方検討	1年次で加入した部活動を2・3学次でも継続できるよう啓発活動を行う。また、必要に応じて部活動顧問会議を開催し、部活動の状況を確認および協議することで活発な活動へとつなげる。(生徒会部)	B	B	
成果		総合的に評価すると、目標等は達成できている。	総合評価		
		個々で見ると、未達の点もあり、年度末に向けてより良くしていきたい。	A		

